



小豆を収穫しました！



みんなで協力しながら、小豆を収穫しています。実の入
りも良く、昨年よりも多く収穫することができました。
小豆の選別作業も虫食いが少なく、沢山のあんこを作
ることができました。



▼干し柿づくり
柿をたくさん頂いたので、
干し柿を作りました。出来
上がりが楽しみです。



▼金曜日は
パンの訪問販売
パン屋さんに来るのを楽し
みにしている利用者様が
いらっしゃいます。



▼大判焼きをつくりました
畑で収穫した小豆で自家製あんこを作り、おやつは、自家製
あんこを使ったバター入り大判焼きです。



twitter
carestanakamach



Facebook
caresta.day



instagram
care.sta

晴耕雨読



作業療法士監修

一軒家“まるごと”生活リハビリ型デイサービス



生活リハビリとは？
「ご自宅やデイサービスで、ご自分がしたいこと、できることを見つけ出し、生活動作として毎日繰り返すことで、身体的機能と認知機能の維持・向上を図ります。」

テーブルを拭く、ご飯をよそう、配膳を手伝う、衣服の着脱を自身で行うなど、生活のなかのあらゆる場面で、ご利用者が現在できることは可能な限りご自身で行っていただきます。また、少しだけ頑張っていたたくさん選択プログラムもご用意しております。そのことが、生活の質の維持・向上につながるかと考えるからです。

さらに、ケアスタ中町では、お一人おひとりのご利用者の心に潜んでいる「してみたいこと」を一緒に探し出し、そのことが実現できるようにサポートいたします。

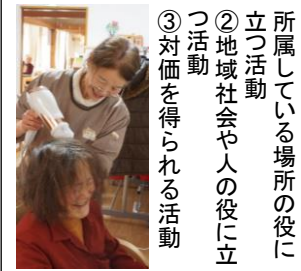
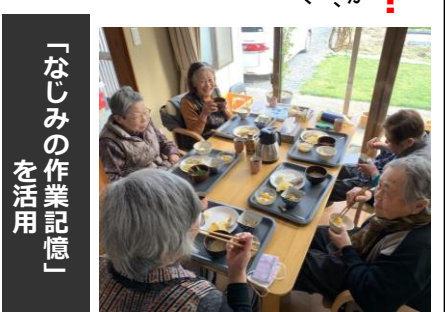
様々なプログラムがありますので、集団になじめない方でも対応できます。また、これまでの生活習慣を変えないように、料理や掃除、社会参加プログラムもご用意しております。

20種類以上の選択プログラム

認知症の人は、なじみの生パン作り、バイキング、コーヒータン、ノルディックウオーキングなど、紙面上では紹介しきれないプログラムを多数ご用意しております。それぞれのプログラムに目的と効果を設定して、プログラムを行う事で日常生活動作の訓練を楽しみながら行う事ができます。

「なじみの作業記憶」を活用

認知症の人は、なじみのない行動は苦手です。目的や手順を説明されても理解が難しかったり、忘れてしまったりして、混乱・困惑し、時にはやらされていることへの怒りを感じることもあるでしょう。一方、積み重ねてきた作業を体が覚えていてくれることがあります。認知症の人は、そうした「体で覚えたこと」「なじみの作業」は、失われにくい傾向があり、生活リハビリではまさにその人のなじみの作業を行います。慣れた行動、わかりやすい目的のため、前述のような感情にとらわれずすすみます。



これまでの介護の課題

認知症や要介護になると、いろいろなことを制限されて、やってもらうことが当たり前になってきます。“何かあつては困る”と活動するリスクは全て排除されてしまいます。これは、本当に望んだ姿なのでしょう。安全にいきるためだったら、部屋にいてずっといるしかありません。

つながり、出来ることもあります！

●できないことを“してあげる”のは、単なる“お世話”
●できることに焦点を当てて、その人らしく暮らせるようにするのが「介護」

支えられる側から 支える側へ

年をとって、体が弱ってくると、受け身になり自分から動くことが少なくなります。そして、支えられることへの申し訳なさや自分の役割がなくなると喪失感で、自尊心が削られていきます。その回復のために、利用者ができることで、地域社会とのつながりや、役割を取り戻そうと考えています。

●ケアスタ中町の3種類の活動

- ① 家や施設などの自分が所属している場所の役に立つ活動
- ② 地域社会や人の役に立つ活動
- ③ 対価を得られる活動



ご利用に関するご相談はLINE
またはお電話でお問合せ下さい！
☎0228-24-8456